



2019年5月8日

各 位

会社名 日本 KFC ホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 近藤 正樹
 (コード番号 9873 東証第2部)
 問合せ先 取締役専務執行役員 金原 俊一郎
 TEL.(045)-307-0605

2019年3月期通期業績予想と実績値との差異及び
 営業外収益の計上ならびに特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、2019年3月期（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）の通期業績予想と実績値との差異及び営業外収益の計上ならびに特別損失の計上につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 業績予想と実績値との差異について（2018年4月1日～2019年3月31日）

(1) 通期連結業績予想と実績値との差異

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	73,000	1,000	1,100	700	31円32銭
今回実績値(B)	74,344	2,206	2,975	2,055	91円99銭
増減額 (B-A)	1,344	1,206	1,875	1,355	
増減率 (%)	1.8	120.7	170.5	193.7	
(ご参考) 前期実績 (2018年3月期)	73,457	477	627	578	25円83銭

(2) 差異の理由

主力のケンタッキーフライドチキン (KFC) において、バリュー施策と新商品を含む商品施策の二層構造化が奏功したことやクリスマス期間 (2018年12月21日～12月25日) のチェーン売上高が過去最大となったことに加え、企業努力による販売費及び一般管理費の削減により、大幅に利益が改善されたことから、当初業績予想を上回る実績値となりました。

なお、配当につきましては、当社の財務内容を総合的に勘案し、1株当たり年間配当金 50円 (中間配当金 25円、期末配当金 25円) を予定しております。

2. 営業外収益（持分法による投資利益）の計上について

当社は、持分法適用関連会社2社の直近の決算内容を受けて、当連結会計年度において、持分法による投資利益 565 百万円を営業外収益に計上いたしました。

3. 連結子会社における固定資産の減損損失の発生について

当社の子会社である日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社において、収益性の低下による減損損失の兆候が認められたことから、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき減損処理を行い、回収不能見込額について減損損失 335 百万円を特別損失に計上いたしました。

以 上